

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## ◎地域社会からの期待に応え、人材を育て、文化を発信するセンターとしての学校作り

創立 113 年目の歴史を有する本校の役割は、「文武両道」をめざし、生徒・保護者のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材を育成することにある。地域社会からの期待に応え、文化を発信できるセンターとしての学校作りをめざし、さらに充実した教育活動の展開をはかる。

## 【めざす生徒像】

- ・グローバルな視点を持ち地域社会で人と人のつながりを大切に出来る人間
- ・学習・行事・部活を通して、最高の力を発揮できる生徒集団

## 【めざす学校像】

- ・生徒・教職員がともに成長する「学び」の空間
- ・実行力と同僚性のある、元気で一体感のある教職員集団

## 【生徒に付けたい能力等】

- ・コミュニケーション能力
- ・問題発見・解決能力
- ・豊かな人間性

## 2 中期的目標

## ◎「“ぜんぶ全力”を合言葉に、“富高プライド”を育てる」

- ・学習・行事・部活を切り替え、最高の力を発揮できる生徒集団の育成
  - ・実行力と同僚性のある元気で一体感のある教師集団の構築
- 今年度のキーワードは、「発信」と「見える化」

## 1 進学学力の養成のために — 「タスクフォース 80」の活動

- (1) 学力生活実態調査の有効な活用と出口を見通した学力伸長の富高モデルの策定
  - ア 3年間それぞれの期に合わせた具体目標の提示と個別面談
  - イ 教科会議、学年会議への情報提供
- (2) 習熟度別指導、不振者指導を活用した学力の底上げを図る
- (3) 学習習慣の確立のための工夫
  - ア 家庭学習記録ノートとそれを使った個人面談
- (4) 3年間を見通した進学講習カレンダーの定着と改善
- (5) 8時までの同窓会館の自習環境の構築（教育サポーターとの共同作業）
- (6) その他
  - ア 他校の有効な実践例の紹介
  - イ HD コースの支援

## 2 授業改善のために = 自己診断授業満足度 75%以上をめざして。

- (1) 授業のフレーム作り
  - ア 挨拶、姿勢、声を大きく、双方向性。黒板等教室環境。
- (2) 授業評価アンケートの活用。
  - ア 直接授業改善と学習姿勢の振り返りにつながるツールとしての生徒の授業評価アンケートの活用。
  - イ 年間最低 2 回実施し改善策の策定と結果の振り返りをする。
- (3) 教科会議を通して課題設定と授業改善の切磋琢磨を。
  - ア 授業改善の工夫の交流
  - イ 各教科での研究授業の設定
  - ウ 保護者による授業参観

## 3 学校全体の元気を育てるためのフレーム作り

生指部は学校全体のフレーム作りと元気付けの応援団

- ※富高プライド（富高生としての誇り）を育てる日々の具体的な言動の改善が積み重なって、各自の中に醸成されたものが自主自立の富高魂と言えるものとして蓄積される
- (1) 遅刻・挨拶・服装・掃除の基本的な生活習慣のレベルアップ
    - ア 教職員全員が同じように声をかける（言い方は違っても）ことでめざす方向が全体に共有される
    - イ 学年、クラス作りの目標の中にも定着させる
    - エ 部活動においては、TPOに合わせた規律のある行動を組織目標とする
  - (2) 課題を抱える生徒には早めにきめ細かい指導を
    - ア 学年団会議での情報共有
  - (3) 学校全体の環境作り
    - ア 駐輪指導体制
    - イ 自転車ステッカー
    - ウ 交通安全指導
    - エ 生徒通用門での朝の声掛け

## 4 豊かな学びの為に

- (1) Eタイム改革の継承。
  - ア 単なる調べ学習でなく、「探求型」で、行動する事を大切にした高校生らしい発信力を育てる
- (2) 様々な、校外のコンクール等にチャレンジさせ問題意識と発信力のある生徒の育成
- (3) 国際系ボランティア系の活動を育て、社会につながる姿勢と問題意識を育てる
- (4) 千里ライフサイエンス振興財団、国連等の富高ネットワークの教育財産を生かし、外部からの出前授業の回数を増やす。（同窓会からの支援）
- (5) 生き方を考える人権学習の改善
  - ア 人の生き方に学ぶ人権学習の構築。
- (6) 朝読の継承
- (7) 図書館の活性化

## 5 情報共有化を進めるために

- (1) 職朝による情報の共有化
- (2) 学年団会議を増やし副担と学年運営方針を共有する。（職員会議のない木曜の活用）

## 6 情報発信

- (1) 学校 Web ページを中心に生徒の姿をタイムリーに発信できる体制作り
  - ア 情報委員会で学校 Web ページの充実
  - イ 校長ブログの新設
- (2) 学校説明会。オープンスクール。塾への説明会

## 7 教育相談体制

- ア 支援教育コーディネーターの定着
- イ きめ細かい生徒把握と課題の共有化

## 8 組織改編

- (1) 教科会議（英・数・国）の時間内の開催
- (2) 図書館 司書教諭の定着。生徒の運営参加。教員が足を運ぶ機会を増やす

## 9 その他

- ア 元PTAの組織化
- イ 富高サポーターの拡充
- ウ 富高山の活用

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1. 生徒 ( ) 内は昨年度、保護者・教員も同様</p> <p>(1) 授業改善と生徒の学習の充実について</p> <p>①授業改善</p> <p>「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」・ 71.8% (67.2)</p> <p>「わかりやすく興味を持てる授業が多い」・ 63.8% (61.1)</p> <p>「進捗や難易度が適切な授業が多い」・ 75.5% (73.5)</p> <p>「ICT 機器を使った授業はわかりやすい」・ 68.2% (新設問)</p> <p>*いずれの項目も上昇している。</p> <p>*ICT 機器の活用も含めて、いっそうの授業法改善に努める必要がある。</p> <p>②生徒の学習状況</p> <p>「家庭学習を毎日 90 分以上している」・ 59.4% (54.9)</p> <p>「おおむね授業の予習復習はしている」・ 55.0% (57.3)</p> <p>「授業中は集中して先生の話の聞いている」・ 81.4% (80.8)</p> <p>*学習時間は確実に増えているが、今後とも努力していく。</p> <p>(2) 個別支援について</p> <p>「理解度に応じて補講や講習が行われている」・ 85.7% (86.3)</p> <p>「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」・ 56.8% (46.0)</p> <p>*相談できる教員は増えている。</p> <p>*よりきめの細かい個別支援体制を築くことが課題。</p> <p>(3) 全体として</p> <p>「この学校には、他の学校にない特色がある」・ 94.1% (93.1)</p> <p>「学校の教育環境は充実している」・ 86.1% (79.9)</p> <p>「学校行事に参加するのは楽しい」・ 93.2% (88.6)</p> <p>「学校の友人関係に満足している」・ 93.6% (90.8)</p> <p>「富田林高校へ進学してよかった」・ 90.7% (87.3)</p> <p>*全体的に学校生活を肯定的に受け入れている。</p> <p>2. 保護者</p> <p>(1) 保護者との連携 (情報発信) について</p> <p>「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」・ 85.5% (80.1)</p> <p>「学校は保護者が授業参観する機会をよく設けている」 88.1% (82.5)</p> <p>「保護者説明会や学級懇談会の回数は適当である」・ 92.1% (87.7)</p> <p>「学校はホームページ・ブログなど情報をよく流している」 87.6% (77.8)</p> <p>「学校の携帯メールマガジンを周知している」・ 81.3% (68.4)</p> <p>「学校からの連絡は子どもを通じて把握している」・ 69.7% (67.2)</p> <p>*概ね達成できているが、「子どもを通じての情報共有」は十分ではない。</p> <p>(2) 全体として</p> <p>*22 項目中 18 項目で、70%以上の肯定的回答を得ている。</p> <p>*20 項目において、肯定的回答が前年度より上昇している。</p> <p>3. 教員</p> <p>(1) 教育活動</p> <p>①生徒への指導</p> <p>「各学年に応じた系統的な進路指導が行われている」・ 89.8% (88.3)</p> <p>「生徒指導は適切である」・ 83.1% (71.7)</p> <p>「生徒への健康・保健指導は適切である」・ 84.7% (81.7)</p> <p>「学校行事への取組は適切である」・ 61.0% (80.0)</p> <p>*生徒への指導は、行事への取組以外は高評価である。</p> <p>*行事への評価が下がったのは、今年度の行事に原因があるのか、来年度以降の行事改革に対する意見の反映であるのか判断しがたい。</p> <p>②教員のゆとり</p> <p>「生徒の状況について教員間で話し合う機会が多い」・ 69.5% (73.3)</p> <p>「教員間で授業方法等について検討する機会が多い」・ 69.5% (70.0)</p> <p>*生徒指導について教員間で話をするゆとりが少しなくなっている。</p> <p>(2) 学校経営</p> <p>「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」・ 89.8% (90.0)</p> <p>「学校運営に教職員の意見が反映されている」・ 49.2% (65.0)</p> <p>「会議は情報交換と課題検討の場として機能している」・ 55.9% (68.3)</p> <p>「分掌・学年間の連携が円滑で有機的に機能している」・ 49.2% (55.0)</p> <p>*校長の指導力は発揮されている。</p> <p>*教員の組織への参加という観点から、経営の質を高める必要がある。</p>	<p><b>第 1 回</b> 6 月 21 日</p> <p>「平成 26 年度学校経営計画及び富田林高校のこれからのあり方」</p> <p>(1) 中高一貫教育について</p> <p>*安い費用で六年教育を受けることができる。どういう学校にするかをはっきりしてくれたら、いっそう魅力的。</p> <p>*掲げられている理念 (一人ひとりの感性を磨き、個性を伸ばし、才能を開花、「生きる力」を育む) は良いが、受験の形がどうなるのか気になる。富田林高校をめざす生徒たちにとっては喜ばしいことである。</p> <p>*富高全体の学力は上がるだろう。</p> <p>*将来に夢のある話。学力低下の食い止めが大事なので大賛成。</p> <p>*グローバルという表現が今回の中高一貫の骨格となっている。目的や意志を持った生徒たちにとってはとてもフィットする言葉。一方で、公立中学には危機感がある。</p> <p>リーダーがいなくなってしまうのではないかと懸念している。</p> <p>*中高一貫校は地域活性化や知識重視の高校入試の撤廃に貢献する。私立のように、進学実績重視だけではだめ。広い視野、グローバルマインドを育てる教育が必要。世の中にメッセージを送れるような学校にしていく必要がある。</p> <p>(2) 学力・進路実績向上のための「見える化」と「ICT 化」について</p> <p>*小学校でも少しずつだが、ICT 化してきた。最近若い先生が増えて、活用できるようになってきた。「データの見える化」は全教員に根拠を持って示せるのでよい。</p> <p>*最終的に生徒に鉛筆を持たせることも大切である。自分で勉強する姿勢をいかに身につけさせるかが重要。</p> <p>*早い段階での動機付けは素晴らしい。逆に早期の脱落者を生むという方向に働かないことを祈る。</p> <p><b>第 2 回</b> 12 月 13 日</p> <p>「本年度の取組みの進捗と改善に向けて」</p> <p>(1) 中高一貫教育校開校準備状況について</p> <p>*入学者選抜については、一般的には塾で特別に勉強しなければ合格できないように感じる。富高の場合、小学校の内容をしっかりと学んでいけば入ることが可能なのか？</p> <p>*周りから聞かれるのは、入試の形や学費。</p> <p>*中高一貫教育理念についてももう少し議論してほしい。「グローバル」と「ローカル」の意味をどのようなものに設定するのか。「人との出会い」を大切にしたいカリキュラムを作ってほしい。内部生と外部生を巻き込み、より良い方向に導いてほしい。</p> <p>(2) 中高一貫教育校に向けて — 現行体制・環境の見直し —</p> <p>*年間の授業数を確保するのが難しい中で、45 分×7 限は良いアイデアである。</p> <p>*都立高校でも 45 分は増えているし、問題なく進んでいる。</p> <p>*総合学習を各学年に組み込んだことは必要なこと。これからはより一層、総合的な学習の内容をしっかりと考えてほしい。</p> <p>*保護者としては、(これまでの 9 月の) 文化祭を 6 月に移行するのは良いことだと思う。</p> <p>*行事の改革について、生徒・保護者との意見交換を行ったのが気になる。</p> <p>*中学校では文化祭はなく、文化的行事としては合唱コンクールを行っている。</p> <p>*幼稚園では劇を行っている。遠足は年 6 回ほど行っている。</p> <p>*中学校では遠足に行かないことが多い。高校の遠足で奈良や京都を訪れ、日本文化に触れるのは良いことである。</p> <p>* (学校 Web ページの刷新について) ホームページは学校の情報を知るために非常に有効なので、見ている人は多い。中学 3 年生は部活動の情報をよく見ている。</p> <p>*ICT 機器の活用は、教員を巻き込んでレベルアップしている。</p> <p>*「学びの改善」が全てで、どのような学びを提供するかが重要。先日地域の「生物多様性に関する集会」で、富高生が発表した。参加者と議論もしていて、地域と関わり、地域に愛されていると感じている。このようなことが、他の教科でも行うことができれば富高はもっと成長する。</p> <p><b>第 3 回</b> 3 月 7 日</p> <p>「今年度の本校教育活動についての評価、次年度にむけての提言」</p> <p>(1) 学校教育自己診断結果について</p> <p>*生徒の「この学校には他の学校にない特色がある」と「富田林高校へ進学して良かった」がともに 90%をこえており、この 2 つの項目はリンクしている。</p> <p>*保護者の学校への協力の度合いで、学年による開きがないのは素晴らしい。</p> <p>*教職員の多忙化へは懸念がある。</p> <p>(2) 中高一貫教育校の設置に向けての進捗状況について</p> <p>*「感謝」し「感動」する心をどう育てるかが非常に大事。</p> <p>*「グローバル」だけに目を向けるのではなく、地元を愛せる生徒をつくってほしい。そのためには、人間関係作りが大切となる。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 進学学力の養成のために</p>	<p>「タスクフォース 80」を中心に ア 学力生活実態調査の有効な活用と出口を見通した学力伸長の富高モデルを作る。</p> <p>イ 授業改善</p> <p>ウ 習熟度別指導、不振者指導を活用した学力の底上げを図る。</p> <p>エ 学習習慣の確立のための工夫</p> <p>オ 3年間を見通した進学講習カレンダーの定着と改善。</p> <p>カ その他</p>	<p>ア・学力生活実態調査の活用と本校生徒の従来データをもとに、出口を見通した学力伸長の富高モデル作りを進める ・3年間それぞれの期に合わせて具体目標を提示 ・教科会議、学年会議への情報提供 ・それに基づいて個別面談の実施</p> <p>イ・教科別の授業公開の実施 ・ICT機器の活用</p> <p>ウ・習熟度別指導の総括を踏まえ改善 ・成績不振者講習でのていねいな教科指導を行い、わかる体験をさせる</p> <p>エ・家庭学習記録ノート（シート）とそれを使った個人面談</p> <p>オ・進学講習カレンダーの改善と全生徒への定着、個人面談での活用</p> <p>カ・年間通じた8時までの同窓会館の自習環境の構築（教育サポーターとの共同） ・他校の有効な実践例の紹介。 ・生徒のやる気を引き出すグッズの作成</p>	<p>ア・学力伸長の富高モデル作りが進んだか モデルプランの共有 ・各学年の進路通信に反映されたか。 ・教科会議、学年会議への情報提供はできたか。 ・個人面談で活用できたか。 (タスクフォース 80 の進学目標)</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>① 大学入試センター試験受験 280 名 ② 国公立大学出願 180 名 ③ 国公立大学合格 70 名 ④ 私立大学合格率 関西大学、近畿大学（文系 50% 理系 60%） ⑤ 大学入試センター試験で、全国平均点を（満点の）5%オーバー</p> </div> <p>イ 教科別の授業公開の日時・回数 of 把握 ウ 成績不振者講習の把握 エ・面談各学年とも年間 4 回実施クラス 60%以上（4月・6月・夏・11月） ・家庭学習記録ノート（シート）の活用ができたか（80%以上） ・自己診断での 90 分の自学自習達成者の 20%アップ オ・進学講習カレンダーの定着と利用率 70%以上 カ・富高オリジナルグッズの作成ができたか</p>	<p>ア・モデル作りが進んでいる。 「見える化システム」を 1 年生全員に実地説明。2,3 年生、保護者は随時利用。 ・進路通信発行 1 年 月 2 回 2 年 月 1 回 3 年 年 5 回 ・外部業者による学力資料を教科・学年に提供。 1 年 3 回 2 年 3 回 3 年 1 回 ・上記データを面談で活用。→エ (進学目標) ①267 名 ②158 名 ③58 名 ④未判明 ⑤社会科のみ 5%オーバー (○)</p> <p>イ. 研究授業 6 教科 8 科目 うち外部公開 6 回 外部参加者 31 名 ・ICT 機器活用 活用教員 67.2% (◎)</p> <p>ウ 不振者指導 ・国語：小テスト・定期考査毎に 1 年 約 60 名 2 年 約 10 名 3 年 約 10 名 数学：定期考査毎に 1 年 約 20 名 2 年 約 40 名 3 年 約 20 名 英語：定期考査毎に 1 年平均 150 名 2 年 約 15 名 3 年 約 20 名 (○)</p> <p>エ・全クラスで面談を年 4 回実施 延べ 3651 名面談 ・学習記録 1 年 100% 2 年 80% ・90 分以上自学自習 4.5%アップ (○)</p> <p>オ・講習は定着。 利用率 90%以上 (○)</p> <p>カ・作成し、様々な表彰時に活用している (○)</p>

府立富田林高等学校

<p>2 学校全体の元気を育てるためのフレーム作り</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣のレベルアップ。 ア 遅刻対策 イ 挨拶運動 ウ 服装指導 エ 頭髪指導 オ TPO に合わせた自律的行動</p> <p>(2) 課題を抱える生徒へのきめ細かい指導 カ 情報収集と提供 キ 学校全体での対応</p> <p>(3) 学校全体の環境作り ク 駐輪指導 ケ 交通安全 コ 「安全安心」</p>	<p>(1) ・全教職員が一致して生徒に向かう事を一番大切にする ・あかん事はあかんと言いつける。 ア・遅刻 ゼロ週間、月間指導、朝の声掛け イ・挨拶 朝の声掛け、教職員の率先垂範、生徒会との連携 ウ・服装 式(入学、卒業、始業、終業など)で標準服、推薦服着用の奨励 エ・頭髪 日常的な声掛けで逸脱をなくす。 ・全員が同じように声をかける(言い方は違っても)ことでめざす方向を全体に共有する。 オ・TPOに合わせた規律のある行動を組織目標にする。 ・学年、クラス作りの目標の中に定着させる。 (2) カ・教育相談委員会での各学年からの情報収集及び、教育相談委員会内での情報の共有。 ・学年・教科・部活顧問への情報の提供。 キ・教育相談担当だけでなく、生徒が多くの教職員に話ができるために、カウンセリングマインドを育てるための研修の実施。 ・気になる生徒の関係者会議開催の提案。 (3) ク・駐輪指導体制(輪番) 生徒会との共同 ・自転車ステッカー ・生徒通用門での朝の声かけ ケ・交通安全指導 コ・安全安心の為の学校環境の整備</p>	<p>(1) ・自己診断「学校の生活指導は適切で納得」(生徒)75%以上(H25 73.5%) ア・遅刻数を年間延べ2,500件以下に削減 イ・生指部の率先垂範 ウ・式での推薦服・標準服着用100% 卒業式での推薦服着用 エ・頭髪服装は極端な逸脱をなくす オ・部活の生徒会との連携 ・学年、クラスに定着したか (2) カ・教育相談委員会議でのきめ細かい報告 ・職員会議での報告 キ・自己診断の「困っている事や悩みを相談できる先生がいる」の50%以上をめざす ・関係者会議を実施 (3) 自転車保険加入100%をめざす ク～コ・できたかどうか</p>	<p>(1) ・「生活指導に納得」76.3% ア・遅刻数 12月末2480件 (前年同期-17%) (△) イ・教員全体で率先垂範 (△) ウ・1年100% 2,3年99% (○) エ・逸脱生徒なし (○) オ・部活顧問が挨拶や頭髪を指導し、生徒会とも連携できている (○) (2) カ・会議30回/年 ・職会で4回報告 (○) キ・自己診断結果が56.8% ・関係者会議2回実施 (○) (3) 自転車保険加入95%(自転車通学435名) (△) ク・生徒会と共同で指導 ・ステッカー100% ・生徒会執行部員と教員で声かけ (○) ケ・1年生に交通安全講習会、バイク免許取得者(5名)に講習 (○) コ・休み時間に教員が校内巡視 (○)</p>
<p>3 地域・保護者との連携と環境整備</p>	<p>(1) 学校情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。 ア 学校Webページ等による情報の発信</p> <p>(2) 校内環境の整備 ア 学習環境の向上 イ 地域への貢献を推進</p>	<p>(1) 情報発信 ア・学校Webページの最新情報の更新 ・メーリングリストをPTAや教職員専用の連絡網の確保と緊急時に校外からでもメール送信ができるように業者委託 ・「校長ブログ」による情報発信</p> <p>(2) 校内環境 ア・選択教室やHR教室へのICT機器設置を推進 イ・地域貢献の継続推進</p>	<p>(1) ア・「校長ブログ」の更新を月15回以上 ・メーリングリストによる情報発信がタイムリーにできたか (2) ア ICT機器が活用できる講義室の設置ができたか イ 地域の要請に応える活動ができたか</p>	<p>(1) ア・学校Webページを12月に全面改訂 ・「校長ブログ」の更新を月15回以上達成 (保護者)自己診断結果が77.8%→87.6% (○) (2) ア 全HR教室にICT機器設置(8月)(○) イ 地域からのクラブ招致や海外留學生の幼稚園・小学校訪問などを実施 (○)</p>